

2022 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------|---------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4070801073 | | |
| 法人名 | 医療法人 翌檜会 | | |
| 事業所名 | グループホーム「ばらいろ」 | ユニット名 | 1ユニット |
| 所在地 | 福岡市東区名子1-1-5 | | |
| 自己評価作成日 | 2022年11月30日 | 評価結果市町村受理日 | 2023年2月21日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

| |
|---|
| <p>なかなかコロナで外出支援ができない中、スタッフで楽しい事を探していつも笑い声がひびいています。美味しい物を食べたり、レクレーションをしたり毎日楽しくしています。今年は初めて庭のブドウの木に実がなりました。かなり酸っぱかったけどそれも笑いになりました。今は大根やラディッシュが収穫時で楽しみにしています。レク活動では大きな鳥居と賽銭箱を制作中です。正月までに間に合わせ「ばらいろ神社」でお参りしたいと思います。</p> |
|---|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 一般財団法人 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F | | |
| 訪問調査日 | 2023年1月6日 | 評価確定日 | 2023年1月27日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

| |
|---|
| <p>福岡市東区名子にあるグループホーム「ばらいろ」は、管理者を中心に職員が結束し、人員体制も充実している。看護師が3人勤務し、母体クリニックや隣接する介護老人保健施設ローズガーデンM.K.などの医師、看護師、リハビリ職、管理栄養士との多職種連携もできており、介護職員と協力して体調の維持向上と共に、体調変化の早期発見・早期対応に繋げている。コロナ禍も感染対策をしながら、敷地内の畑の野菜を収穫したり、地域の散歩の際に地域の方々から野菜などを頂いている。感染状況に応じて保育園の園児が訪問し、踊りを披露して下さり、楽しいひと時を過ごされている。ホーム内に“ばらいろ神社”と”賽銭箱”を手作りし、いつでもお参りができるようにしたり、願いを書いた絵馬も飾られている。日々の生活では、ご利用者がフキの皮むき、豆の筋取り、もやしひげ取り等をして下さり、日曜はおやつを手作りし、庭のキンカンと一緒に収穫してキンカン煮にしている。重度化されている方が増えている中、「残された力でくらしの喜びと自信を」感じて頂けるように努めているホームである。</p> |
|---|

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|-------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 実施できている。 | 法人全体の理念である「笑顔とサービスまごころ込めてのんびりゆっくり1つ上いく快適介護」と共に、「・家庭的な雰囲気作り ・人としての尊厳を守る・残された力でくらしの喜びと自信を」と言うホームの理念を大切にしている。職員全員でご利用者個々の残存能力を見極め、家庭的な雰囲気の中で季節行事も大切にされており、“快適”な生活の在り方の検討を続けている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 出来る事を続けていく。 | 散歩の時に農家や地域の方からネギや芋つる等を頂くこともあり、感謝の気持ちを伝えている。地域の空き缶拾いや草むしりがコロナで中止になっているが、町内会長からごみ袋を頂いている。感染状況に応じて保育園の園児の訪問もあり、運動会の踊りを披露して下さり、ホームからクリスマスプレゼントを渡している。看護学生の実習受け入れも継続している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 実施出来ている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行っている。 | コロナ禍は全ご利用者と会議を行い、ご利用者の要望等を記載した書面での会議を続けている。日々の暮らしぶりや行事、外部評価結果も報告し、面会時に家族の意見を伺うようにしている。コロナ以前は11時30分から運営推進会議を開始し、昼食を一緒にしていた。季節行事（そうめん流し、焼きサンマ等）も行い、ご利用者の心身状況をご覧頂いていた。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 取り組んでいるが、何かないとなかなか連絡する機会がない。 | 計画作成担当者の退職に際し、アドバイスを頂いたり、福岡市のコロナ関連等のアンケートに回答している。福岡市東区役所や地域包括の方、地域のグループホーム関係者との集いもあり、情報交換が行われた。福岡市から各種研修案内も届き、可能な限り受講できる体制を整えている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 取り組んでいるが、入居者の帰宅願望が強くと、その際に見守りが手薄の際は玄関の鍵を閉める事もある。勝手口は常に開いている状態である。 | 職員の日々の寄り添いと共に、散歩やドライブ、カラオケ等を楽しみ、家族との面会を行い、穏やかに過ごされている。帰宅願望が聞かれる際も、ご本人の行動の背景を分析し、少しでも安心できる方法を検討している。法人全体で事故防止委員会と身体拘束廃止委員会、虐待防止委員会を行い、身体拘束の無いケアを続けている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 努めている。 | | |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 行っている。 | 職員は権利擁護の研修（内部・外部研修）を受けている。契約書に制度の記載があり、管理者が入居時に説明している。制度を利用する方もおられ、後見人との情報交換を続けている。家族状況に応じて心配事の相談に応じると共に、必要時は制度の説明を行う予定にしている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|----------|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 行っている。 | ご自分の意思を伝えることが難しい方が増えている中、“入居者会議”を継続し、少しでも思いや要望を伝えて頂けるように努めている。コロナ前は家族会（月1回）等を行い、交流の機会になっていたが、コロナ禍も面会時や電話で家族の思いや要望を伺うと共に、暮らしぶりを報告し、体調変化時は管理者・看護師が家族と情報交換している。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 行っている。 | 馴染みの職員が多く、チームワークも良好である。「今日1日、楽しく笑って生活する」ことを大切に、職員のアイデアは多い。感染対策に配慮し、散歩やドライブ、花見などを楽しまれている。会議で採用した意見(ケア内容)は1ヶ月実施し、更なる検討を続けている。看護師も3人勤務し、介護職員と結束したケアに繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 努めている。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している | 行っている。 | 人員体制が充足しており、採用面接の機会は減っている。採用時は笑顔で挨拶ができる方を大事にしており、初任者研修修了者で、優しさや笑顔、目の生き生き度と共に、「おじいちゃん、おばあちゃんが大好き」という姿勢の方を採用している。プリセプター制度で育成支援を続けており、有給消化もでき、誕生日休暇も増えている。職員の特技(レクや手芸、料理等)も發揮して下さっている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 取り組んでいる。 | 「利用者を尊重し、個々に適したサービスを提供する・・・」と言う事を大切に、管理者は日々、職員個々のご利用者への関わりやケアの根拠を確認している。職員も私語を慎み、ご利用者も一緒に会話をされており、ご利用者の役割や楽しみを増やすように努めている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|---------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 行っている。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 中々訪問出来ずオンライン研修に参加している。 | | |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 努めている。毎日声掛けを行っている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 努めている。面会の際に毎日の状況説明を行っている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 努めている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 努めている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 築いている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 努めてはいるが、9名中8名車椅子になり、介助を要するようになってきた為、なかなか難しくなってきた。 | ご本人の生活歴を把握している。家族と馴染みの美容室に行かれたり、自宅に帰られた方もおられる。誕生日に家族とご飯を食べに行かれていた方から、「コロナが落ち着き、外食したい」と言う要望を伺い、主治医にも確認し、車への昇降の仕方や移乗の仕方をアドバイスさせて頂いた。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 行っている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 行っている。 | 入居前から、管理者とケアマネが主にアセスメントしており、担当職員も生活歴や趣味、要望等をセンター方式に記入している。意思疎通が難しい方も増えている中、「焼き肉が食べたい」「散歩に行きたい」「花が見たい」「おやつが作りたい」等の要望を叶えており、笑顔の写真が増えている。家族面会時に生活歴等を教えて頂き、介護計画に活かしている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 努めている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---------|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 出来ている。 | 系列の老健で使用するADL評価シート【「A・目標」「B・実行」「C・能力」を記入】を活用し、自立支援や個別ケアに繋げている。センター方式、MMSE評価等も行い、課題分析を行っている。主治医や看護師、PT・OT・ST等からのアドバイスを頂くと共に、日々のケアの実施状況もチェックし、家族と共有している。 | ①今後も1表の「病歴」の在り方を検討すると共に、“生活への意向”は本人が上に、家族を下に記入していく予定である。 ②ご本人と家族にも伝わるように、専門用語の記載を控え、ご本人の“できること”や役割を追記していく予定である。 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 活かしている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 取り組んでいる | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行っている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 支援している。 | 協力医療機関(月2回)と歯科医師の往診(必要時)があり、系列のPT・OT・ST・管理栄養士からのアドバイスを受けている。母体クリニックや近隣の整形や皮膚科は看護師が同行し、管理者や看護師が家族に報告し、情報交換している。眼科等は家族に診療情報提供書を持参して頂き、家族からの報告を受けている。土日も看護師が勤務し、24時間体制で相談できている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|----------|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 行っている。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 取り組んでいる。 | 重度化、終末期の意向確認を行い、同意書を頂いている。「最期までホームで」「できるだけホームで」と希望される方はかりで、最期まで誠心誠意のケアが行われている。職員の観察力も深く、早期対応に繋げており、24時間体制で医療連携ができています。緊急時は管理者や看護師が駆け付ける体制があり、老健の看護師との連携もできています。 | 今後も引き続き、ご利用者個々の急変リスクや体調変化のサインを勉強し、早期対応に繋げて行く予定であり、重度化・終末期における勉強会の充実を図っていきたいと考えている。 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 努めている。 | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 努めている。 | 老健を含めて夜勤は6名勤務し、老健等と合同訓練している。2022年3月は地震想定、6月は大雨想定、10月は台風想定での訓練や火災訓練を行い、ご利用者も一緒に駐車場まで避難した。大雨の状況に応じて老健に避難するようにしている。夜勤者は首から防犯コールを下げ、警備会社に通報でき、玄関等に防犯カメラを設置しており、水と常備食、非常持ち出しリュック（2個）等を準備している。消防署の訪問時（年2回）にホーム内を確認して頂き、物の置き方へのアドバイスを受けており、BCP（事業継続計画）も作成中で、実践に繋げていく予定である。 | |

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

| | | | | | |
|----|------|---|----------|---|--|
| 38 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 実施出来ている。 | 事務所に「丁寧な言葉遣いと丁寧な態度」と掲示しており、職員と共有している。優しい職員ばかりで、言葉遣いと羞恥心に配慮しており、トイレ・お風呂のドアは必ず閉め、着替えの際は居室のドアを閉めている。職員は申し送り時の声の大きさ等に注意し、インシヤルで申し送りを行い、法人研修で個人情報管理の指導をしている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 行っている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 実施している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 行っている。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 行っている。 | 併施設設で料理を作り、咀嚼・嚥下状態に応じて“やわらか食”も作られている。ご利用者も一緒に畑で大根やラディッシュ等を収穫し、季節料理を追加したり、フキの皮むき、豆の筋取り、もやしのひげ取り、下膳等を一緒にしている。日曜はおやつを手作りし、誕生日はケーキを一緒に作り、週1回ホームで夕食を手作りしており、食材の買い出しも一緒に行かれている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|----------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 行っている。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 行っている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 行っている。 | 重度化されている中、トイレでの排泄を大切にされている。失禁状況を職員間で話し合い、個別ケアに繋げており、2人介助を行う方もおられる。立位や座位等の能力を評価し、事前誘導を行いながら、薄手のパッドに変更できた方や、入居時にオムツを使用していた方が、リハビリパンツ（パッド）に変更できた方もおられる。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 取り組んでいる。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 行っている。 | 入浴好きな方が多く、湯温の希望を伺い、入浴時は職員との会話を楽しまれている。歌（童謡等）も聞かれ、バスクリーンの香りを楽しまれている。入浴を拒まれる方は声かけを工夫し、楽しい入浴になるように努めており、できる範囲は洗って頂いている。コロナ以前は老健の人工温泉や機械浴を使用することができていた。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--------------------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 努めている。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 行っている。 | | |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は出来るだけ外に散歩に行つて、気分転換を図るようにしている。 | 玄関に帽子を準備している。コロナ禍も感染対策をしながら、敷地内の畑の野菜を収穫したり、隣接する老健を訪問し、他の職員に挨拶している。天候に応じて、週4～5日は散歩に出かけており、買物やドライブ（古賀市の菜の花畑等）を楽しまれている。車いすの方も乗れるハイエースがあり、法人の方が運転をして下さっている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 行っている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば行う。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 行っている。 | リビングは明るく、庭を眺める事ができる。換気を行い、カーテン等で日差し調整をしている。テーブルやソファ、畳のコーナーがあり、思い思いの場所で過ごされている。車いすの方が増えており、自走時の離合のしやすさを考えたレイアウト変更が行われている。手作りの“ばらいろ神社”を作り、お祈りできるようにしており、廊下にも季節の飾りつけを行い、絵馬に願いが書かれている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|----------|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 行っている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 実施出来ている。 | 各居室は、入居時に好みの壁紙を選んで頂ける場合もある。居室の入口に写真や絵、人形を飾り、居室内にも家族の写真等が飾られている。筆筒、机、ソファ、テーブル、冷蔵庫、大好きな帽子等と共に、お位牌や経典を持ち込まれている方もおられる。職員と一緒に居室の整理整頓を行い、車いすの方も洗濯物を筆筒にしまわれており、適宜、換気も行われている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 実施出来ている | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |